

## 再びベトナムで足利と栃木を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

昨年の3月栃木県経済同友会ベトナム・カンボジア経済視察に続いて、12月29日から1月3日まで短い期間ではあるが、再びベトナム経済・社会視察を行う機会を得た。

自分の会社や組織を考えると、他社や他の組織を絶えず訪問・視察しながら考えると、客観的に自らの姿が見え、又、将来どうしようかと考えることができるのと同様に、足利や栃木県を考える際にも、別の市、別の県を訪問・視察しながら考えることが有用だと思う。ただ、アジアの国々が猛烈な勢いで日本にキャッチ・アップしつつあるので、単に日本国内での視察だけでは足りない。どうしても、アジアの国々へ積極的に足を運ばなければならない。私は、フィリピン・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・香港・台湾・韓国・中国の各国をこの数年間複数回経済・社会文化視察団の一員として視察させて頂いているが、同一国や同一企業・組織への視察回数が増えれば増えるほど、国や企業・組織の発展とは何かについての認識が深まり興味が尽きない。のみならず、自分の会社・所属する組織・住んでいる地域の発展を考える際に非常に参考になる。とりわけ、行方不明米兵問題が決着し、アメリカとの交流が昨年3月以降開始されたベトナムは最も注目に値する国の一つである。少し前置きが長くなったが、「みにむ」の読者の皆様に第2回目のベトナム最新レポートをお届けする。

### 2. ベトナムは「最後の投資の楽園」か

国を相手に「投資」の対象にするのはどうかと思うし、又、「投資」ということばも国に対して使うのもおかしいとは思いますが、実際のところ、ベトナム商業省の方も、ベトナム商工会議所の方も、ハノイ大学の総長も、又、ベトナム投資協力委員会の方々も全員口をそろえて、「日本企業の皆さん、是非ベトナムに投資をして下さい。」と言っていた。できれば日本企業にどんな形でも良いから進出してもらいたい、そして工場を建ててもらいたい。更に、ベトナム人を雇用し技術の移転をもらいたい。良い品をつくり外国に輸出し、ドルを稼ぐ協力をしてもらいたい。そのことが、ベトナム国民の生活の向上につながる。開発途上国のどの国でも言われたのと同じ要請をベトナムでも受けた。土地は国有だが20年以上、50年までなら貸借してもOK。賃借権の譲渡もOK。税金も、大幅に減免する。外資の持ち出しも10%の税金を払えば自由。etc.etc.....

ベトナムの朝は早い。朝の4時半ころから働きはじめる人も多い。午前7時前後は、通勤の人で街はごった返す。夜は9時、10時まで残業をいとわない。一つの仕事が午後5時で終わる人は二つ目の仕事をそれから後もっている人が多い。休みは週一日だけ。国民の祝日は年に6日のみ。一年間に公に休むのは58日だけ。あとは働きづめる。とにかく勤勉だ。

ベトナム人は学力が高い。フランス植民地時代に文字はすべてローマ字表記にされたが、ほとんどの人は日本の中学校までは出ている。日本の高校へは6~7割が進学、大学は5%と進学率はまだ低

いが、仕事が終わって第二の仕事を持たない人は、専門学校に夜通う人が多い。時間さえあれば、何か活字を読んでいる。ベトナム人のための英語学習書を 8 冊買ったが日本円で 70 円とべらぼうに安い。平均で月 2000 円の月給だが、日本企業の工場だと 3500 円最低賃金がもらえるので日本企業は人気が高い。英語と日本語が話せ日本企業のオフィスで働けると 4 万円以上の収入になるので、英語と日本語の学習熱は盛んだ。ハノイで訪問した中学で話した中 2 生の女の子の英語はほぼ完璧。さすが小学 5 年生から週に 8 ~ 10 時間英語を学校で勉強したとあってどの生徒もきれいで文法的にも全く誤りのない英語を話す。ノートを見せてもらったが、みんなすみからすみまでピシリと同じタッチで正確にきれいに最初の 1 ページから最後のページまで使われていた。礼儀が実に正しい。

ベトナム人はよく約束を守る。約束時間の 5 分前には必ず現れて、外で我々を出迎えてくれる。口でしたちょっとの約束も必ず果たす。凡帳面な性格である。自己主張を余りせず、我々の言うことを最後まで聞き、必要なことのみ正確に発言する。

サイゴンの近郊にクチのトンネルというベトナム戦争のときに作られた長さ 250 km のゲリラのトンネルがある。アメリカ軍と戦うため手作業でトンネルを掘り、そこに何万人もの人が暮らしたそうだ。フランス・アメリカの前は 1 千年もの間中国の支配を受けたそうだ。「この平和は、千と 30 年ぶりの平和です。今初めて平和の中で自分と自分の家族のために仕事ができる本当に幸せです。働けることが幸せなので、苦には少しもなりません。」と知り合いになった人から言われ胸が熱くなった。

昨年 2 回訪れた中国も半年たつとどんどん街の様子、人々の暮らし向きが変わっていたが、ここベトナムも 9 ヶ月で随分状況は変わった。電気の供給が不安定であったためか時々暗くなったが、今回は、ほとんどそのようなことはなかった。人々の服装がかなりよくなった。同じ市場を訪れたが売られているものが数段豊富になった。人々の顔がますます明るくなった。土地が国家所有の社会主義の国なのでインフラの整備が驚くほど早い。「外国企業を誘致するための経済特区はつくれるだけつくり、道路、河川、橋、港湾、学校、発電所、変電所その他のインフラ整備もやれるだけやろう。そのためには軍隊も動員しよう。法律がほとんど未整備なので、民法・商法・労働法・税法その他近代国家として必要な法律はどんどん整備しよう。」と明治維新と、戦後焼跡復興と、高度成長期が一度に来ているようなベトナムだった。

ベトナム戦争当時、アメリカに難民で渡った方の子供で、二人ともアメリカの大学を首席で卒業し、アメリカに会社をもち、サイゴンでも仕事をしはじめた若い夫婦に会った。祖国ベトナムの再建のためやれることは何でもしたいという気持ちで来ているそうだ。「日本企業にとってもベトナムは十分有用だと思うので、是非林さんもベトナムで仕事をして欲しい。又、日本の人々にベトナムの素晴らしさとベトナムでの仕事の可能性を伝えて欲しい。」と、熱っぽく語られた。

ベトナムは最後の投資の樂園か否かは定かではないが、社会主義政権ではあるが政情が極めて安定していること、政府が外国からの投資とりわけ日本からの投資を積極的に求めていること、インフラの整備が急ピッチで進んでいること、国民がおそらく世界一勤勉であり、又信義に厚いこと、英語を話すマネージャークラスが大量に存在することを総合的に考えれば、外国に生産拠点を移転するのならベトナムが一番と断言できると思う。工場移転を考える方のみならずこれから自社をどのようにもっていくか考えておられる方、政策判断をする立場にある方は是非、少なくとも二度くらいはベトナムを訪問なさり、じっくりお考えになられることをお勧めしたい。(預金をするなら、インフレ率の低いベトナムの銀行に預金をするのがよいのかも知れない。)工場ならハノイ、商業ならサイゴンをお勧めする。

### 3 . おわりに

冬は暖冬、夏は冷夏、地震の頻発する新年であるとの予想をしているが、これに加えて住専関連の金融機関のクラッシュが予想される。政府が上手に対応策を出し切ることを期待したいが、日本経済にとって長い冬の時代の始まりが本年であると予想できるので、読者の皆さんも、ここ何年間かはどんなことがあっても驚かないよう万全の準備をして臨んで頂きたい。取るべき基本動作は昨年随分書かせて頂いたので、わからなくなったら「みにむ」を読み直して頂きたい。とにかく、誰も助けてはくれないので自分自身頑張るしかない。